

2003 年度 委員会活動成果報告

(04 年 3 月 31 日作成)

委員会名	ウエイファインディング研究会	主 査 名：渡邊 昭彦
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会	委員長名：服部 岑生
設 置 期 間	02 年 4 月 ~ 04 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	・建築や都市は年齢や障害によらず誰にでも分かり易い事が必要である。近年、建築や都市は大規模・複雑化し、非常に分かり難く、早急な改善が必要で、建築計画・都市計画等の各分野の研究者が、研究手法等の特異性と共通性の理解を深め、新しい研究手法等への展開を模索する活動を行う。03年度は、各委員による研究展開期間とし、その成果を04年度から報告する。	
委員構成 (委員名(所属))	渡邊 昭彦(豊橋技科大) 飯尾 昭彦(日本女子大) 森 一彦(大阪市大) 青木 義次(東工大) 小松 尚(名大) 鈴木 毅(阪大) 積田 洋(電機大) 日色 真帆(愛知淑徳大) 藤井 晴行(東工大) 細田智久(豊橋技科大) 横山 勝樹(女子美大)	
設置 WG (WG 名:目的)	無し	
2003 年度予算	無し 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	新たな研究手法検討研究会を〔財〕科学技術交流財団の研究会(座長渡邊昭彦)と合同で実施してきた。財団研究会も終了し、研究経費を科学研究費に申請したが、採択されず、各自研究発展期間とした。04年度以降、成果を出版等の企画へと繋げる。また、主査の大学に環境行動シミュレーション実験装置と呼ぶ仮想現実立体視実験装置が完成し、公開研究会と同時に見学会を実施する。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・建築や都市は年齢や障害によらず誰にでも分かり易い事が必要であるが、近年の建築や都市は大規模化、複雑化し、非常に分かり難く、早急な改善が求められている。建築計画学・都市計画学等の各分野の研究者が集まり、研究手法等の特異性と共通性の理解を深め、新しい研究手法等への展開を模索する活動を行ってきた。 ・2003年度活動成果 1、活動状況で述べたように、科研研究費が得られなかったため、新たな展開のための各自研究発展期間とし、04年度以降にそれらの研究成果を出版等へつなげる。 成果 2、主査の大学に環境行動シミュレーション実験装置と呼ぶ仮想現実立体視実験装置が03年度に完成し、04年度以降、公開研究会と同時にその装置を用いた共同研究へと展開する予定である。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 予算の無い研究会のため予算獲得と併行して各自研究を展開し、その成果を発表や出版へと繋げる方式で進める研究会で、その準備段階である。その中で主査の大学に仮想現実立体視実験装置が完成したことは、今後、研究会の共同研究等の有力な手段になると考えられ、研究会の目標は着実に進んでいると言える。
その他評価すべき事項	特に無し